

各地での団体の取組み(1)



【札幌市】 森ボラ協議会

報告者 樫棒 典夫 氏

(1)概要

本団体はNPO法人北海道森林ボランティア協会のメンバーが別組織を立ち上げ、平成25年に発足しました。会員は札幌を中心に現在約80名で、実際に山に入って活動しているのはその半分の40名程度です。平均年齢は70歳前後。年間の活動日数は、退職者が主体のため150日ほど、春から冬まで1年を通じて野外で活動しており、その他、会議やセミナーなどを含め年間合計170日程度となります。

(2)活動内容

活動内容については、以下の3本を柱に活動しています。

- ①育林活動：作業道・木道整備、地拵え、植樹、播種、下草刈り、整理間伐など。また間伐材を使ってキノコ栽培や薪・炭作りなどを行っています。
- ②生長観察：毎年、動物の食害や枯れたりする樹があるため、植えた苗や稚樹の本数や樹高測定などで生長を確認しています。標準木、標準地調査で既存の森林の場所を決めて、樹種・胸高・周長・樹高・経緯度・標高などを記録しております。
- ③森林教育：最近増えてきた小学校や幼稚園対象の森林教室などを開催しています。会員を対象とした安全教育、研修会、冬季セミナーなども開催しています。

活動対象地は4つあります。札幌市内では南区澄川と、清田区有明の都市環境林。この2つの森林は札幌市の所有であり、我々の団体が借りて活動を行っています。千歳市の支笏湖の周辺で2006年に台風被害を受けた土地で、各企業などが札幌コンサドーレ(サッカーチーム)と共同して植林・維持・管理する「支笏湖コンサの森」を担当。また、この森の近くにある「支笏湖復興の森」では管理署と協定を結んだ1.1ha。これらの森林の育林を行っています。

(3)今年度の活動について

「支笏湖復興の森」

倒れた木を全て整理し、空間を作り、トドマツを1,000本あまり植林しました。さらに植栽列と自然のままにしている列で、どんな木が生えているかを調査しています。トドマツは、7~8年経ったの

で1m程度に育っています。しかし千歳特有の火山灰地であることや水分や栄養分が少ないこともあり、成長は若干遅いです。標準列を使って生長調査をしており、2013年と2015年を調査した結果、生長は2013年は平均70cmくらいで、2015年になると大きいのは2m90cmになっているものもありましたが、平均すると1m程度でした。

草刈機は11台保有しており、支笏湖へ草刈に行く場合は20名程度で1泊で行っています。半分の会員が機械で草刈をし、残りは手刈や生長調査などを行っています。

「支笏湖コンサの森」

標準列を使って生長調査をしています。土地の条件が悪く、生長は良くありません。1mほどに生長しているものもありますが、平均70cm以下です。植栽列幅は4mで2条植え(2mピッチで2本植える)です。コンサの森の生長調査の一例としてトドマツを3ヵ年(2008年~2010年)にわたって調査したところ、少しづつ生長していることがわかりました。

ヤチダモ(広葉樹)も1,000本ほど植えましたが、2年間の調査結果を見るとかなりバラつきが見られました。大きいのは2m50cm以上もありますが、小さいのは50cm以下となっていました。広葉樹はネズミやエゾシカの食害を受けやすいことが原因と考えられます。



札幌市 澄川都市環境林 木道4か所を含む作業道、散策路整備



学童保育、幼稚園、小学校などでの森林体験教室のお手伝い



札幌市 有明第二環境林 約0.4haのギャップ地をササ刈り、チップパー粉碎、地拵え

「澄川都市環境林」

笹だけになっていた場所を、子どもたちに植林してもらうために整備を始めました。多面的機能発揮対策交付金を使って碎石を購入して、作業道に敷きならしました。子どもたちが参加する森林教室の一環としてノコギリ体験を実施しました。子どもたちは初めての体験で競ってノコギリで木を切っていました。また、幼稚園児に葉っぱの話として秋の落ち葉を拾って説明しました。幼稚園ではカミネッコンを使った苗木を半年ほど育てて、秋に森に作られた空き地に植えています。これを3年間継続しています。

多面的機能発揮対策交付金の事務局の方を講師に招いて刈払いの講習を行いました。今年1月の作業日には、安全な木の倒し方や注意点などの講習を受けて山に入りました。

澄川都市環境林の樹種は、ミズナラ・ハンノキ・カラマツ・ハリギリ・ヤチダモ・シラカンバです。木の本数が多いため若干間引き、木を太くして生長を促したり、枯れた木や倒木を整理しています。

標準木調査が一昨年からはまりました。1ha当たり代表的な樹種を数本選んで、ペンキでマーキングしてアルミの標識をつけて樹高・胸高周長・経緯度(交付金で購入したGPSで計測)などを測定しました。3年から5年後に同一の木を調査する予定です。調査の結果として、GPSのデータ(緯度・経度・標高)と樹木情報(胸高周長から直径換算)を見ると、最も大きいもので直径換算61cmでした。対象の半分の調査を終了しています。

「有明第二都市環境林」

14ha中、笹だけの部分が0.4～0.5haあり、そこに植樹するために笹を夏季に刈払いをしました。刈った笹はチップパーを使用して粉碎して周りに散布しています。全部刈るとまた笹が生えてくるため二次刈り・三次刈りを行ってから植栽を行います。笹刈りのみで3年かかりました。その場所で5mピッチ程度に4～5本、針葉樹と広葉樹を混ぜて試験的に植栽しています。植樹は半分ほど終了しており、今年も雪解けから植樹を再開する予定です。

(4)成果・課題

成果

- ①植栽木の確実な生長を確認
- ②札幌近郊(澄川・有明)の「里山林」となっている
- ③会員の健康増進・ストレス解消にたいへん役立っている

課題

- ①会員の高齢化に合わせた活動内容の見直し
- ②森林教室などを増やして、森づくりの身体的負担を軽減する
- ③会員の勧誘(ホームページや学校などでチラシ配り)

ホームページでは「土日に森林ボランティアしませんか」と募集している。

<http://shinrin-npo.info/>

2016年度から親子森林教室を開催し、「森しり隊」として1年間森を観察してみようという内容で募集中です。

最後に、里山林は短期間で整備できません。この事業がさらに継続されることを要望しています。また地域で私たちが整備できそうな森があれば当会へご連絡をお願いいたします。